

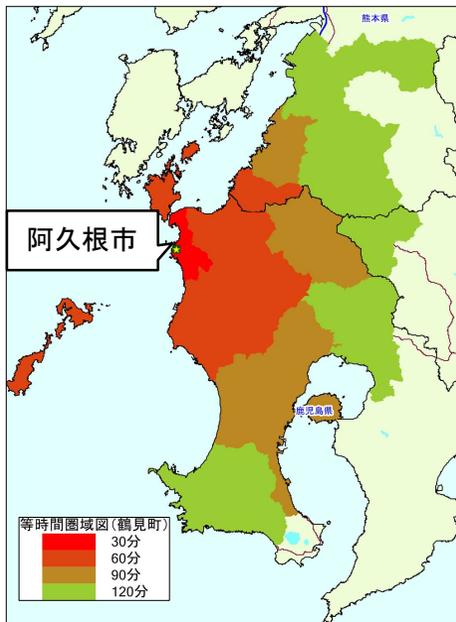
【現段階における宿泊施設誘致・整備の可能性:現時点の結論】

- 旧国民宿舎跡地の土地に単純に宿泊施設を建設しただけでは、地域活性化につながる活用は十分にできないと思われる。
- 全国にある他の観光地に比べ現段階では、阿久根市に①長い時間をかけて、②宿泊を目的として訪れるだけの魅力があるとは言いがたく、現状の阿久根市に宿泊施設を建設したとしても、その宿泊施設が事業として継続し得るだけの「事業性」は期待できない。



現段階でHKRJapan株式会社が旧国民宿舎跡地に宿泊施設を直接整備する予定はない。
引き続き宿泊施設を整備・運営する事業主体の誘致に阿久根市(以下「本市」という。)とHKRJapan(株)が連携して取り組む。

上記の理由①:地理的状況



出典:全国総合交通分析システム
(NITAS) ver.2.5

《本市の状況》

- 全国をマーケット対象とした場合、主要都市からのアクセス等の利便性が低い。
- 本市へ120分でアクセスできる人口(いわゆる「120分圏域人口」)は、概ね148万人にとどまっている。



《主要な観光開発事例の状況》

- 国内・九州の主要な観光開発事例の「120分圏域人口」は、数百万人から数千万人となっている。

上記の理由②:観光資源的状況

《本市の状況》

- 自然資源については、本市の海産物・農産物は非常に豊富であり、十分な観光資源となり得る。
- しかし、他の九州主要観光地(博多、長崎ハウステンボス、大分別府など)と比較すると、その訴求力が乏しい。



《主要な観光開発事例の状況》

- 国内・九州の主要な観光開発事例では、それぞれの地域にある「観光資源」を充実させ(いわゆる「プラスアルファのコンテンツ」の充実を図り)、宿泊施設を含めた観光地の魅力を高めている。

【例:パソナグループ観光施設(兵庫県淡路市)】



既存の豊富な農産資源に、二次元のコンテンツを組み合わせることで差別化を図っている

(この2つの状況を今後どのように改善していくべきか)

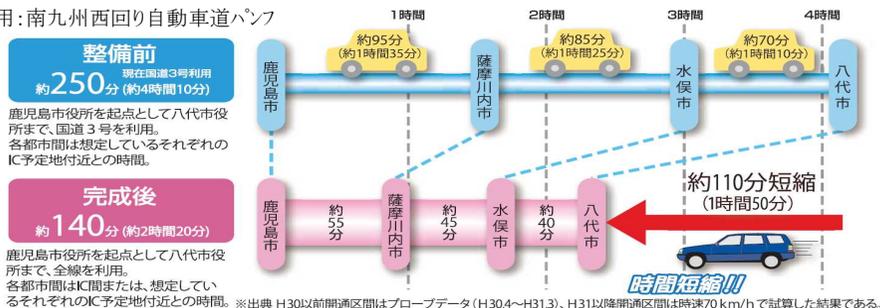


地理的状況の改善策

(主要都市との時間距離の短縮等)

- 現在進捗している南九州西回り自動車道整備により大幅に改善される見通し。
- これにより、新たに熊本市(人口:約74万人)等も本市の120分圏域人口に含まれることになる。

引用:南九州西回り自動車道パンフ



現段階で本市が考えている「面的開発」のイメージ

「旧国民宿舎跡地施設の開発コンセプト」

九州圏内の地元企業が主となって、「ウェルネスツーリズム」という旅先でスパ、フィットネス、レクリエーションなどを通して、心と体の健康を保とうとするニーズに応える施設の整備



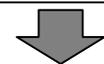
「本市のねらい」

- 交流人口増による地元雇用の創出
- 地元産品の消費拡大を通じた地域経済の浮揚

(宿泊棟内のイメージ)

観光資源的状況の改善策等

- 本市の豊富な自然資源を活かす「コンテンツ」の導入の検討
→ 食と癒しがテーマの複合リゾート施設を運営する(株)アクアイグニスとの協働による、西回り自動車道整備に合わせた面的開発を行っていく



「現在アクアイグニス社が各地で行っている開発の特徴」

- ・ インターチェンジをハブとして車での観光客流入を図っている。
- ・ 地元の食材や泉源などの「地」の資源をメインに、一流料理人による監修やテーマ性のある空間演出で、訪問客に特別な体験を提供。
→ 本市が誇る豊富な自然資源をより魅力的なものとする事が可能

【例:アクアイグニス片岡温泉(三重県菰野町)】



(低コストでハイクオリティの施設。温泉には地元の利用者も多い)



アクアイグニス社代表取締役社長の考え方

◎九州における開発の考え方

- ・ 北部九州の拠点施設として小倉～博多間に、南部九州の拠点施設として博多～鹿児島間にそれぞれ検討したい。
- ・ 立地条件は高速道路付近であることと二次交通が整備されていること。
- ・ 九州圏内の地元企業が主となって、アクアイグニス社が提携して共同開発を行うこと。
- ・ 今後の開発地を検討するに当たって、阿久根が一つの候補地として可能性があること。